

Withコロナ対策

当法人は、新型コロナウイルス感染症対策に万全を尽くしています。

来訪者様の検温の実施と
マスク着用の徹底



職員及び利用者様の健康管理、
感染予防



オンラインのフル活用
(会議、研修活動など)



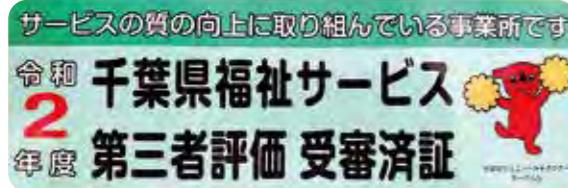
大規模行事を
規模を縮小して実施



新型コロナウイルス感染症
対応マニュアルの作成



こころの都 第三者評価について



「しいのみ園こころの都」は、千葉県福祉サービス第三者評価を受審し2021年3月23日に評価確定事業所となりました。評価確定日現在においては、千葉市の生活介護事業所では唯一評価を受けた事業所となります。

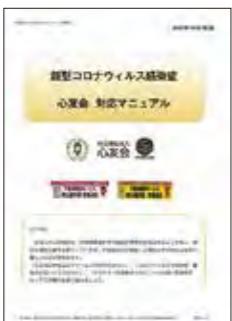
今後も引き続き福祉サービスの質の向上に取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症 心友会 対応マニュアルを作成しました

昨年は新型コロナウイルスに翻弄された一年となり、活動の自粛を余儀なくされ、利用者様や職員にとって大変な一年となりました。

年が明け毎日のように新型コロナウイルス陽性者数が最多更新をし続け、1月7日には1都3県に緊急事態宣言が発出されました。

このような状況の中で、心友会は独自の感染症対策マニュアルを作成し、職員に徹底させております。



しいのみ園への寄付金のご報告

ご寄付ありがとうございました。

50,000円 井芹 洋一様、桐谷 洋子様

お預かりした寄付金は大切に使わせていただきます。
尚他にも多数ご寄付いただきました。

編集/広報委員会

広報誌16号では新型コロナウイルス対策、新規事業所、職員の資格取得による自己研鑽、働きやすい職場づくり等、盛りだくさんな内容となりました。

新型コロナウイルスの影響で悪いニュースが多い世の中ですが、しいのみ園ではコロナ対策はもちろん、職員一人ひとりが切磋琢磨し、利用者にとって安心・安全な支援を行っています。

今後も皆様に笑顔が届けるような情報をたくさんお届けして参りますので、どうぞ期待ください。

広報委員会 宇留間俊行、伊藤玲奈、黒澤杏子

令和3年

7 / 1

発行

第16号

ふくろう通信



発行／社会福祉法人 心友会 しいのみ園グループ 理事長 武田 昇
〒266-0003 千葉市緑区高田町1953番地1 E-Mail info@shinyukai.jp
TEL.043-291-2941 FAX.043-291-2181 URL https://www.shinyukai.jp/

法人の基本理念 親亡き後の子供たちのため、国際社会、地域社会で人間らしく、安心・安全・共生できる心豊かな施設づくり。



私達の使命

新型コロナウイルスにより私達のライフスタイルは大きく変わりました。そしてエッセンシャルワーカーとしての私達に求められるものも確実に変わってきています。

しかし、私達が、利用者様ひとり一人の尊厳を守り、利用者様がその人らしい自立した豊かな人生を自己実現できるように支援することに変わりはありません。私達一人ひとりがその専門的役割を自覚するとともに、私達全員が共に協調し、公正かつ適切な支援をするための基本を再確認する必要があるのです。



理事長 施設長
武田 昇
福祉施設士

One Heart One Team One SHIINOMIEN.

心友会は、日本福祉施設士会会員です。「福祉QC」活動を主体に「福祉サービスの質の向上」に取り組んでいます。

令和3年度4月から

二つの事業所が動き出しています。

療育

しいのみ園 ともほんだ

事業内容：障害児通所支援事業所 放課後等デイサービス（定員 1日：10名）

しいのみ園 ともほんだは、学校、家庭、各機関と連携しながら、子どもの発達過程を把握し、様々な経験を積み重ね、指導員や他の児童と関りを持つことで生活能力の向上や自立生活に向けた支援を行っています。また、自由な環境の中で育まれる感情の芽生えや行動の変化に応じたプログラム（日常生活訓練、集団生活適応訓練、創造的活動、余暇等）を提供し、児童一人ひとりの発達や成長を目指しています。



「楽しい とも」のうたが誕生します。

心友会の放課後等デイサービスは、「ともたかだ」、「ともみやこ」、令和3年度4月より「ともほんだ」も加わり3つの事業所を展開しております。このたび、元気な児童のみなさんの歌として「楽しい とも」が完成いたしました。この曲は心友会の施設長の武田が掲げた「みんながしいのみ園に行きたくなる」というテーマをコンセプトにしたもので、作詞、作曲は童謡歌手として活躍中の、なげのあやか氏です。子どもたちの成長と明るい未来をイメージし、曲調もアップテンポで何度も聞きたくなる曲に仕上がりました。皆様に届くまでもうしばらくお待ちください。きっとご期待に添えることと思います。



働く

しいのみ園 あい

事業内容：就労継続支援B型事業所（定員20名）

しいのみ園 あいは、リネン班・農耕班・製菓班の3つの作業班に分かれており、それぞれの活動場に分かれて作業に取り組んでいます。利用者一人ひとりが仕事を通して、自分自身の課題と向き合いながら、目標を達成する喜びを学び、仕事に対してやりがいと誇りが持てるように支援しています。



進む国際交流



介護福祉士国家試験に合格しました。



この一生に一度のチャンスを掴め、夢を叶えて本当に感謝しています。

障害者支援施設 しいのみ園在籍
介護福祉士 ヴィリヤレヤル シーラ エスペント
(VILLAREAL SHEILA ESPANTO) (フィリピン セブ島出身)

どうしてEPAを通じ 日本で働こうと思ったのですか。

日本に来た理由は、知識を広げ、自分自身でチャレンジしてもっと自立したいと思ったためです。子どもの頃から、日本で働きたいと言う気持ちのみならず国の美しさや豊かな文化等を体験したいと思っていました。EPAを通して、この一生に一度のチャンスを掴み、夢を叶えられて本当に感謝しています。

合格の喜びと、今後の目標など 聞かせてください。

合格して本当に嬉しいです。私は自分が合格した事実よりも、家族と友達が喜んでくれたことが何よりも嬉しかったです。そして自分にほんの少し、自信を持つ事ができました。

日本で仕事を継続し、一步一步目標を達成していきたいと思います。

研修中に感じた事、 苦労した事、失敗した事、 楽しかった事など教えてください。

3年間の研修にわたって、仕事をしつつ、色々な感情を感じたり、プレッシャーや一連のテストがある事は決して容易ではありませんでした。しかし、夢を叶えるためにはある程度の犠牲、努力、苦労は覚悟する必要があると思います。また、自分を信じて、いつも家族や応援してくれている同僚からの力を得ています。勉強と仕事の苦労や失敗した時に、やる気がなくなったり失望されたりしたが諦めようとは思わず、人生は失敗の連続ではないのでその失敗をモチベーションに変えることで、ステップアップした自分になれると思います。

自己研鑽のすすめ

しいのみ園の「職員の使命」のひとつに「私達は、常に初心に戻り自己研鑽し支援にいかし続ける。」とあります。そのひとつの手段として資格取得があると考えています。今回は、「知的障害福祉士」資格取得者に原稿を依頼しました。

Message

知的障害福祉士は知的障害援助専門員の上位資格という位置づけで、より専門性を求められる試験内容でした。

過去問題や合格基準が公開されていないため、試験対策の取り組みが難しい試験でもあります。しかし、一緒に受検する仲間を見つけるモチベーションアップを図り、是非とも資格取得を目指してほしいと思います。

その専門性の高さから、必ず支援現場で活かすことができる資格だと思います。特に、強度行動障がいを有する方へのアプローチ方法や、困難支援ケースに遭遇した時も、諦めない力を身につけることができる等、知識を得ることで自信を持って仕事に臨めるようになります。

しいのみ園利用者様のために資格取得を目指して勉強頑張りましょう！

子育ても一段落し、私が本格的に仕事を始めたのが心友会でした。

知的障害についての知識を得るために、知的障害援助専門員の勉強をし、その知識を生かしながら、利用者様の支援を行って参りました。知的障害援助専門員の資格を取り、支援にも慣れてきたちょうど二年後に、知的障害福祉士の受験要件が整い、さらなるレベルアップを目指し、受験しました。知的障害福祉士は、2日間の日程で一日半の講義の後、そのまま試験（選択問題と小論文）となり、合格



中根 慶太
平成25年度資格取得

知的障害福祉士という狭き門（私が受験した際の合格率は約14%）である資格を取得すること、それを目指して努力することで名実ともにプロの支援者となれる信じてあります。自己研鑽は必ず自身の糧になります。同じような志がある方はぜひともチャレンジしてみてください。

当時の知的障害福祉士認定講習会講義資料を開いて見ると「ケアマネジメントと地域連携」「本人主体と権利擁護」「事業所の運営管理」等の講義要旨が記されていました。資格取得試験では、決められたテーマの記述式試験もあるため事前に多くの資料や関連書籍を読み頭の中で記述練習をした記憶があります。

私たち対人援助専門職は、福祉サービス利用者の真のニーズを把握し、福祉サービス利用者が自らの問題を主体的に解決し、自らの人生を創造的に生きていくことを支援するという他者の生き方、人生を大きく左右するという重大な責任のあるやりがいのある仕事です。

是非、自己研鑽を継続しておこない広い視野にたちながらより質の高い支援につなげるための資格取得に取り組むことをお勧めします。



宇留間 俊行
平成30年度資格取得

あらゆる仕事の中から、障害者支援を選ぶ人は、「思いやり」があり「相手の身になって考える」方だと思います。しかし、その優しさが、時には行き詰りや苦しさになる時もあると思います。また、がむしゃらに過ぎる1、2年目が終わると、後輩の助言・指導を行う一面も出てきます。知的障害福祉士は、そうしたリーダー達の視点で学びます。

福祉を担うリーダー達も、多くの点で悩み、時には苦しんできました。その先人たちの実績と研究から学び「根拠と自信」が得られます。私たちも「思いやり」と「専門性」という両翼を得て共に成長していきましょう！



亀井 昌子
令和元年度資格取得

世間では、障害者支援は「誰でもできる仕事」と考える方も少なくありません。それ故にこの仕事をプロフェッショナルな仕事として考えている私はどこか悔しい気持ちが湧いていました。



知的障害福祉士とは、知的障害のある人が利用する施設・事業所において支援・援助に係る計画の策定・調整等とともに、支援・援助にあたる職員に対して助言・指導等を行う専門職員の資格です。知的障害援助専門員の資格取得後、一定の実務経験を経て認定講習会の出席及び資格認定試験に合格した方に資格が付与されます。

働きやすい職場づくり

しいのみ園では、全ての職員が働きやすい環境を作るための取り組みの一つとして、平成30年度より産前産後休業や育児休業を取得しやすい職場を目指し、仕事と子育てを両立できる環境作りに努めています。現在子育て中の職員より、家庭と仕事の両立や育児休業について聞いてみました。



1年産休・育休を取り、2020年4月から仕事を復帰しています。

復帰する際には、子どもを保育園に預けるため、通常勤務時間は8:30～17:30ですが、8:00～17:00に変更し、土日はお休みをいただいている。

復帰した際には、久しぶりの仕事に、自宅に帰ってからは家事・育児と毎日バタバタした日が続いていました。

また、保育園から連絡があり、急遽早退をしたり、子どもの体調不良で急遽、または長期の休みを頂いたりすることが、この1年間多くありました。職場の皆様には大変迷惑を掛けていました。

いるとは思いますが、お休みを頂きとてもありがとうございます。
今後も、仕事に家事や育児、どれも楽しく、笑顔で過ごせるようにしていきたいと思っています。



1年間産休・育休をいただき、今年度4月に復帰しました。

子育てと仕事の両立は大変ですが、夫婦で協力したり職場の様々な配慮のおかげで、毎日充実して過ごす事ができています。復帰する際に勤務体制について相談させていただき、変則勤務（早番、遅番、泊まり等）は除き、自宅から近くの事業所の勤務、また休暇をとる前に所属していた部署に配属させていただきました。また保育園からの急な連絡が入った際は、すぐに調整していただき安心して勤める事ができます。

復帰する際はブランクもあり、不安や心配など様々な思いがありましたが、その思いとは裏腹に、職場の皆さんに温かく迎えて頂き、今では子育て経験者の皆さんと会話することも楽しみのひとつで、楽しく仕事をしています。



出産を間近に控えた妻が妊娠高血圧症候群と診断され急遽入院となり、予定よりも早く出産を行うことになりました。

念のために上司に報告すると「奥さんのそばにいてあげてください。仕事のことは気にしないでください。」と温かい言葉をかけてくださいました。私はすぐにお休みを頂き、出産は母子ともに健康で無事終えることができました。

休暇の制度のある職場というのは多くあると思いますが、なかなか申請しにくいと思ってしまうと思います。しいのみ園では皆さんのが心配してください、積極的に休みを取るように言ってくださいました。制度だけではなく、そういう環境がとても大事であると強く感じました。ちなみに、おかげさまで子どもはとても元気で、毎日やんちゃをしております。

現在、事業所内保育所計画案が出ており、さらなる働きやすい職場づくりに努めています。



安藤 絵里
保育士、介護福祉士
知的障害者援助専門員



伊藤 玲奈
保育士、介護福祉士
知的障害者援助専門員



荒木 利文
社会福祉士
知的障害者援助専門員

千葉市市議会議員

視察のご報告

2021年4月14日の午後、美浜区の田畠直子議員、中央区の亀井琢磨議員、緑区の白鳥誠議員の3名の視察を受けました。

公益事業所と放課後等児童デイサービス事業所へ

はじめに誉田駅南側にあるコミュニティカフェふくろう屋へご案内し、社会福祉法人の公益事業として地域の交流の場、くつろぎの場、相談の場となっていることを説明。

次に、誉田駅の北側に位置する、生活介護事業所こころと放課後等デイサービス事業ともほんだにご案内。

ともほんだでは、職員が「知的障害について理解してもらい、子どもたちが地域に溶け込めるよう支援をしていきたい」と話し、4月1日に始まったばかりの施設の前で記念撮影。



入所施設と2019年10月の台風で被害を受けた施設周辺を視察

入所施設しいのみ園に移動。

しいのみ園の周辺の森は2019年10月の台風で被害を受け、いまだに高木がボロボロと折れています。当時、倒れた木で道路がふさがれ、地域の方々の協力を得て切断してからうじて通行できるようになったことを説明し、さらに施設脇の林道を千葉市と協力して整えたことなど話しながら施設周辺をご案内し、知的障害者支援のために法人が整備して来た温室や椎茸栽培の森を見ていただきました。

最後に、絆棟で理事長同席のもと職員と意見交換。知的障害施設の現状や課題、特に強度行動障害について、相談における狭間の課題について、障害者施設のコロナ対策について、放課後等デイサービス事業について、それぞれサービス管理責任者から説明しました。



千葉市市議会議員の視察されたみなさんは、課題認識として次のような事柄を示されました。

- 障害のある方の学童期～成人～高齢者になるまで、支援が多岐に渡るにもかかわらず、保護者が支援を十分に把握する情報を得られる術がなく、光を見通せない。
- 地域や社会の理解を図り、共生・共存をすすめていく必要性がある。
- 障害者の方々も高齢化し、支援と介護は異なるため、高齢になった時に進行する、生きる場所・施設がない。
- 国は施設からグループホームなど、地域で生きるよう方向性を定めているが、重度の方、強度行動障害の方の行き場への配慮はあるか。
- 強度行動障害の方々の支援体制(施設など)は充分か。
- 外国人福祉人材の育成・活用が進んでいた。日本語習得・国家試験の取得など法人の負担と努力が大きい。
- 相談支援専門員が足りていない。充実させるための待遇等、改善が必要。
- 病院(救急を含む)の知的障害のある方々の受け入れ態勢と理解促進。
- 学校・福祉・家庭の一体的な教育・療育
- 放課後デイの意義

さらに、「障害者の方々に寄り添う大きな愛情をもつ職員の方々の献身的な想いと姿勢に、もっと障害・高齢福祉を血の通った、息づいたものに、議会でしていかねばならないと責任を感じました。」という感想をいただきました。

4月14日、千葉市議会議員の白鳥誠議員、田畠直子議員、亀井琢磨議員の3名が来訪され、しいのみ園まちづくり支援室の活動や障害福祉サービスの現状と課題について意見交換を行いました。心友会は障害者の高齢化問題や強度行動障害者への支援について先駆けて取り組みを進めており、職員へ介護福祉士の取得や、利用者の特性に合わせた施設作り(絆棟)を行っていることを報告しました。今回のような機会は、議員の方と直接意見を交換することができ、利用者の声を発信できる貴重な機会でした。意見を交換することで、利用者のニーズに合わせた制度が具体化していくことが期待できると思われます。

しいのみ園の職員として福祉の未来を創造し続けるためにも、福祉の現状を常に発信していくことが我々の使命であると考えています。



高山 嶺
相談員

私たち支援者は日々の支援とともに、存在しない資源やサービスの必要性を地域や社会に訴えていくという、利用者さんの代弁者としての役割もあります。それをアドボカシー機能といいますが、そのような意味において今回は貴重な機会をいただきました。私たちの報告を今後の議員活動に活かしていただき、知的障害者支援の制度が充実していくことを願い、ご多忙にも関わらず視察にお越しいただいたことを感謝します。



報告者
福谷 章子
管理者